



# 兵庫県における市町との取り組みについて

兵庫県県土整備部県土企画局  
交通政策課

# 兵庫県概要

兵庫県



## 兵庫県

人口 : 5,593,621人(全国7位)

面積 : 8,396.13km<sup>2</sup>(全国12位)

市町数 : 29市12町(合併前 20市77町)

高齢化率 : 22.6%(市町別 34.0~15.8%)

産業全国一位 :

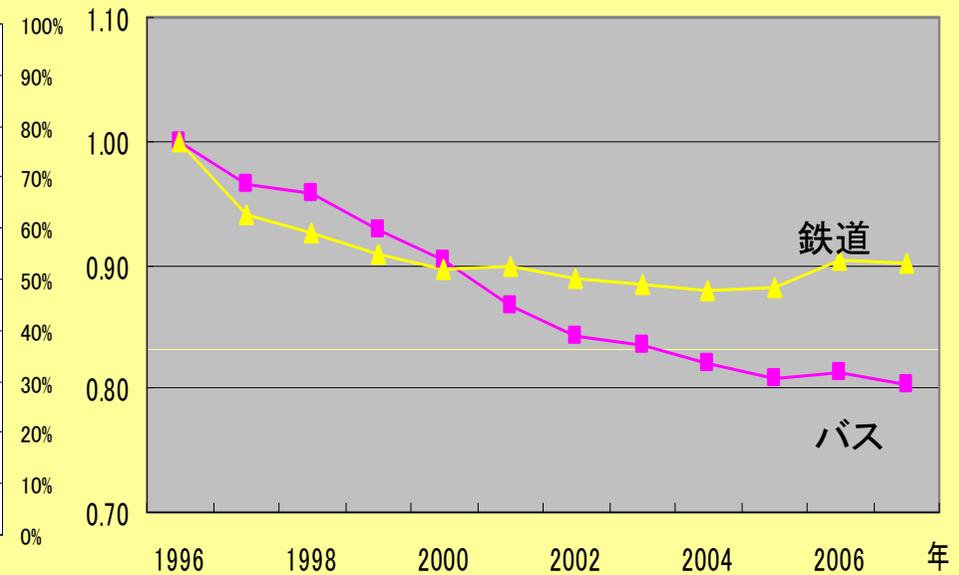
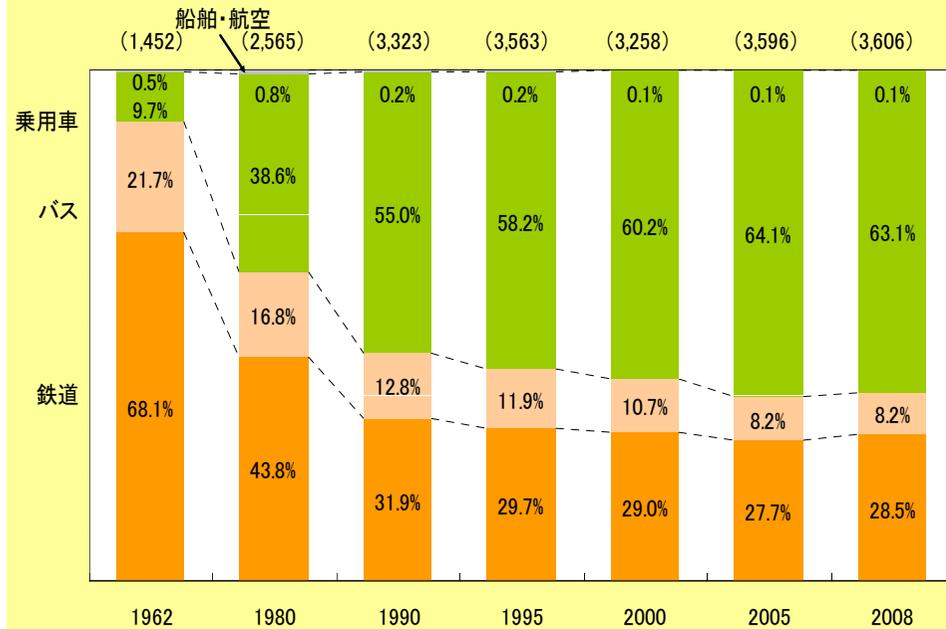
農産物 酒米(76.6%)、ずわいがに(31.8%)

工業品 線香類(43.4%)、学生カバン(44.7%)

地場産業 釣針(90%)、マッチ(94%)

(H23.10.1現在)

# 県内の交通



## 移動手段の推移

( )内は年間流動。単位は百万人  
 出典：旅客地域流動調査

## 県下の乗合バス、 鉄道の輸送状況

1996年を1とした指数  
 出典：交通政策課



# 県内の交通(鉄道)

## JR西日本

新幹線、東海道本線、山陽本線、赤穂線、  
山陰本線、福知山線、播但線、姫新線、加古川線

## 民鉄

阪急電鉄、阪神電車、神戸電鉄、山陽電鉄、能勢電鉄  
北神急行、神戸新交通、神戸市交通局

## 第三セクター

北条鉄道、北近畿タンゴ鉄道、智頭急行、関西高速鉄道

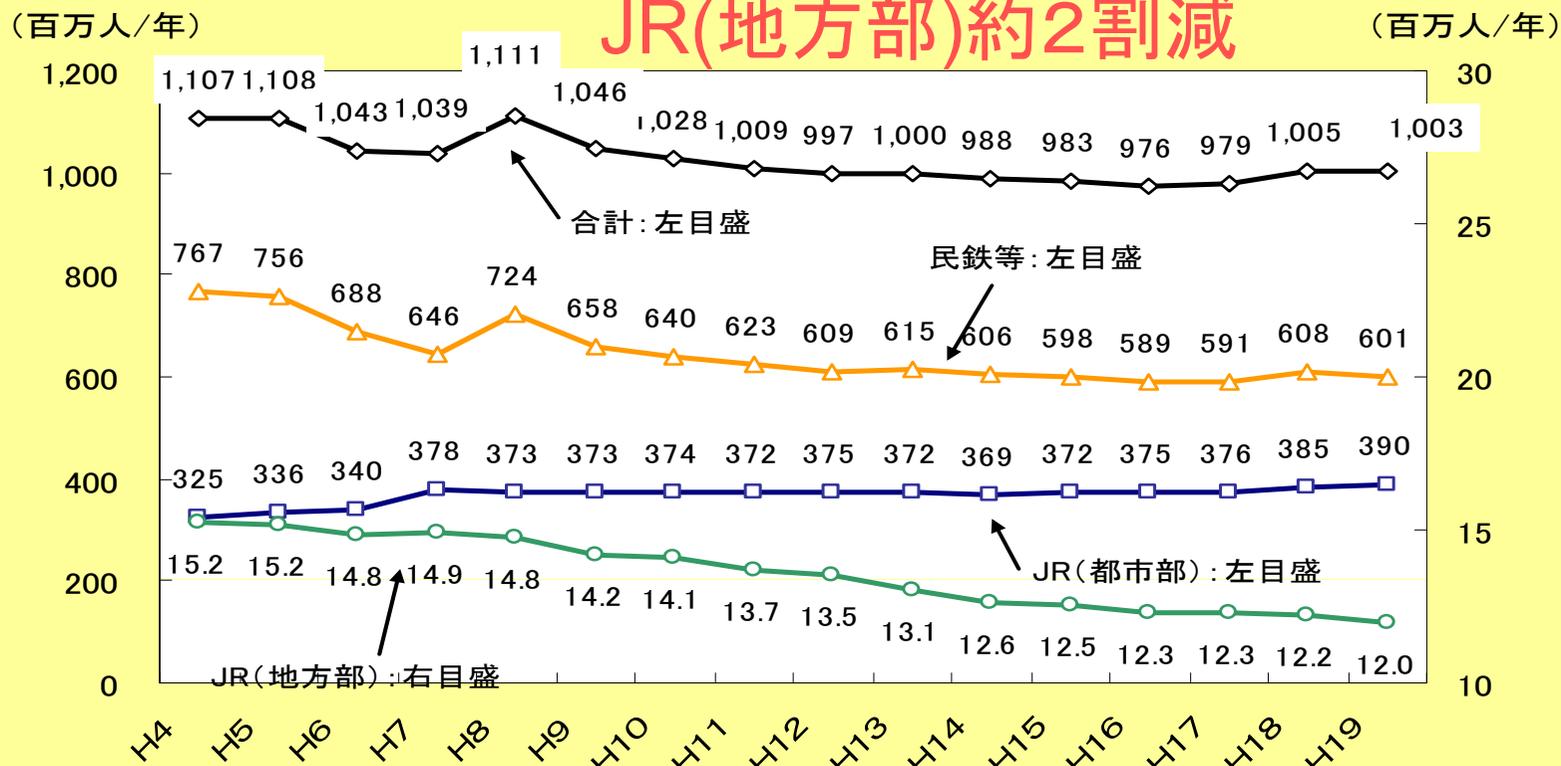
計13社局(JR+民鉄(8社局)+第3セクター(4社))

# 県内の交通(鉄道)



H4→H19

JR(地方部)約2割減



## 鉄道輸送人員の推移

資料: 地域交通年報(民鉄等は第3セクター、公営交通を含む)

JRの都市部と地方部の数値は、兵庫県統計書の日平均乗車人員を年に換算

JR都市部(東海道本線+山陽本線+福知山線+赤穂線)

JR地方部(山陰本線+播但線+加古川線+姫新線)

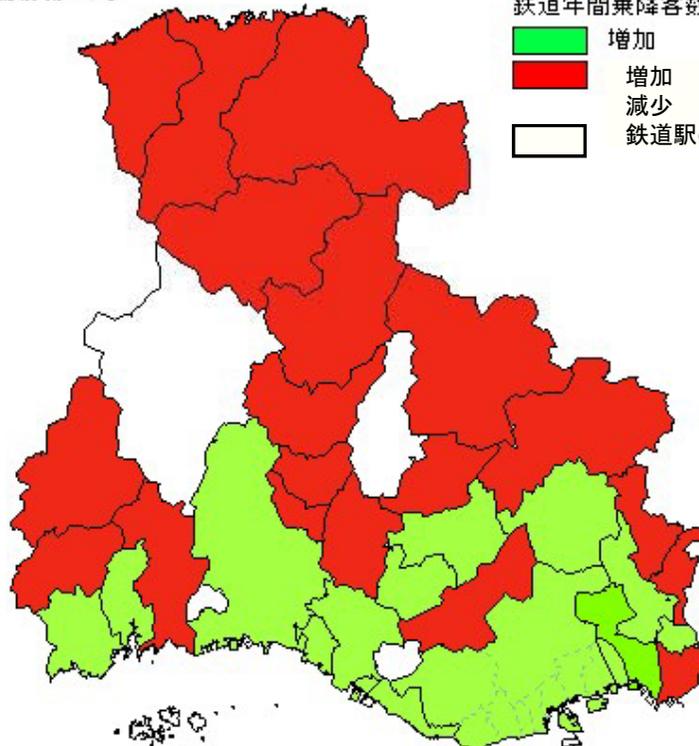
# 県内の交通(鉄道)



国土地理院承認 平14総複 第149号

鉄道年間乗降客数の変化(H16とH20)

- 増加
- 増加  
減少
- 鉄道駅のない市町



H16→H20  
増加15市町  
減少19市町

兵庫県



# 県内の交通(バス)

民営バス	神姫バス、全但バス、淡路交通、 阪急バス、阪神バス、山陽バス、
公営バス	神戸市交通局、尼崎市交通局、 伊丹市交通局
コミュニティバス	23市町(県補助の対象)
市町有償運送	9件
過疎地有償運送	2件
無償運送	6件

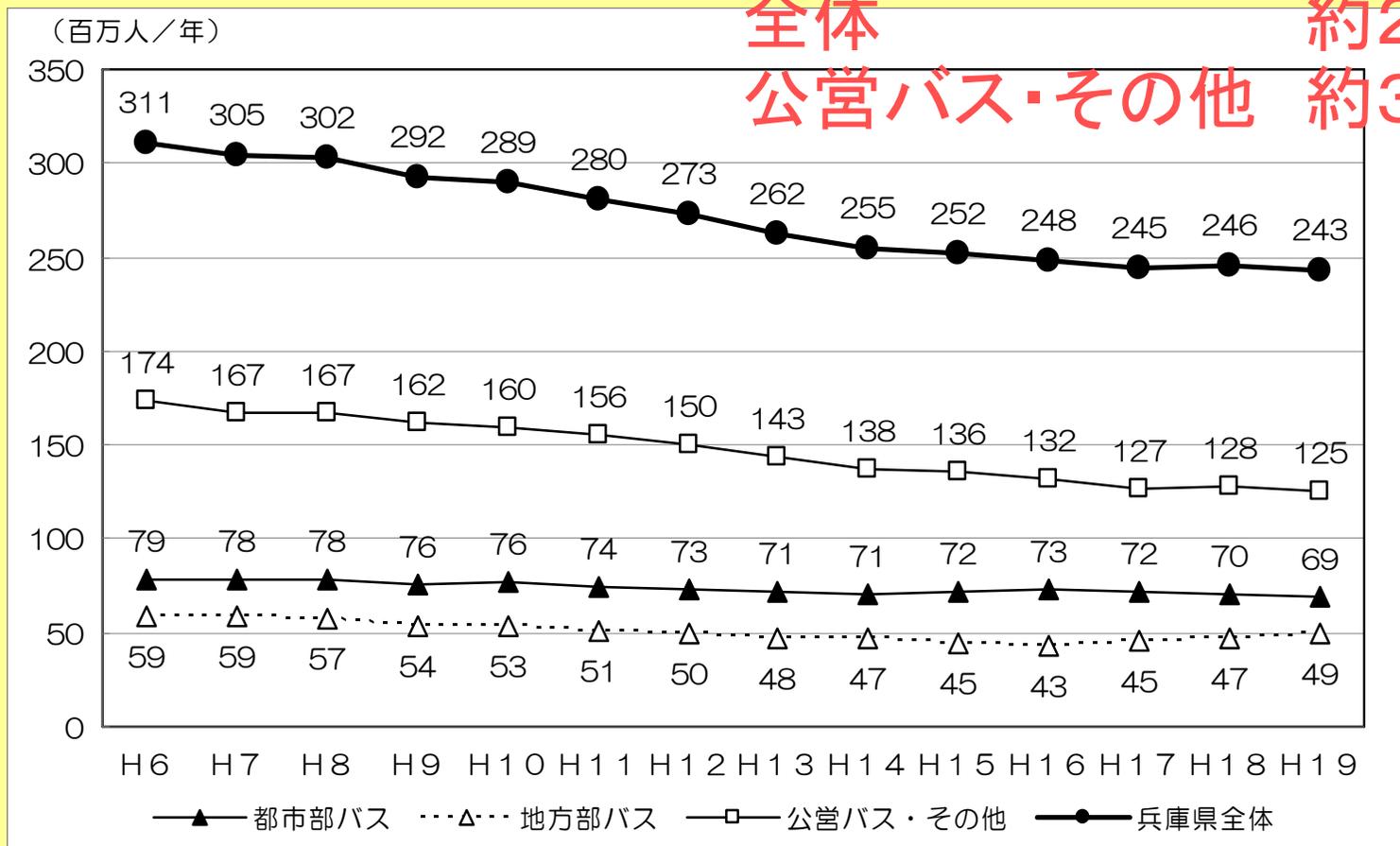
\* 兵庫県バス協会加盟24社局のうちバス  
保有台数50台以上のバス事業者を記載

# 県内の交通(バス)



H6→H19

全体 約2割減  
公営バス・その他 約3割減



## バス輸送人員の推移

# 公共交通勉強会の概要

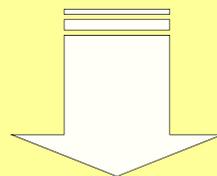
兵庫県



平成19年～

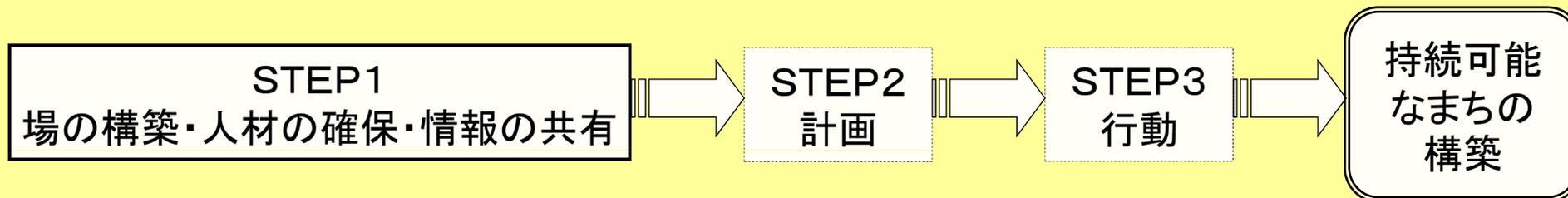
市町職員対象に年1回

「バス補助って難解」「交通事業者は何を考えてる？」  
「課題が山積み。担当者一人でどうしたら？」



平成22年～

市町職員、**交通事業者**等を対象に年**3**回



# 公共交通勉強会の概要(H22)

兵庫県



<p>第1回 H22.7.26 参加者55人  * 自治体のみ</p>	<p>①講演「交通政策にとって公共交通は不可欠か？」(神戸国際大学 土井教授) ②報告「兵庫県におけるバス事業者の経営状況～なぜバス事業者は補助金を求め路線を休止したがるのか」(県交通政策課) ③講演「交通政策って難しい、でも楽しい～今だから言える実務担当者が語るここだけの話」(京丹後市企画政策課野木主任) ④ワークショップ「持続可能な公共交通とするために」</p>
<p>第2回 H22.9.15 参加者75人 * 自治体 + 交通事業者</p>	<p>テーマ「相互理解」 ①講演「交通基本法等について」(国土交通省近畿運輸局交通企画課 浪越課長) ②講演「バス業界の現状と将来展望」(神姫バス(株)バス事業部 中野部長) ③ワークショップ「持続可能な公共交通とするために ～これからの交通事業者と行政のあり方～」</p>
<p>第3回 H22.11.19  参加者54人 * 現地視察</p>	<p>テーマ「共助と公助」 ①講演「住民運営型交通と地域交通」(大阪大学大学院 猪井助教) ②報告「佐用町地域公共交通総合連携計画について」(佐用町 井土係長) ③講演「過疎地での地域交通づくりの一事例とその先に見えるもの」 (県立福祉のまちづくり研究所 北川主任研究員) ④パネルディスカッション「我らの足は我らでつくる～“江川ふれあい号”が走るまで～」</p>



# 参加者の意見

## H22年度 公共交通勉強会 参加者アンケートより

### 意見

- ・事例紹介、ワークショップなどで情報収集ができた。(自治体)
- ・他市町の担当職員と意見交換ができた。(自治体)
- ・事業者、行政の視点を感じることができた。(自治体、事業者)
- ・この様な場があることがありがたい。(事業者)
- ・WSの手法が勉強レベルにとどまり、議論が中途半端。(事業者)
- ・試行錯誤でも進んでいくことが大切。大きな一歩。(学識)

### 課題

- ・全3回の勉強会の案内を一括で出して欲しい。  
(参加者の予定が立てにくい)
- ・開催時期への配慮。(9月末は中間決算、議会)
- ・ワークショップの時間が短い。

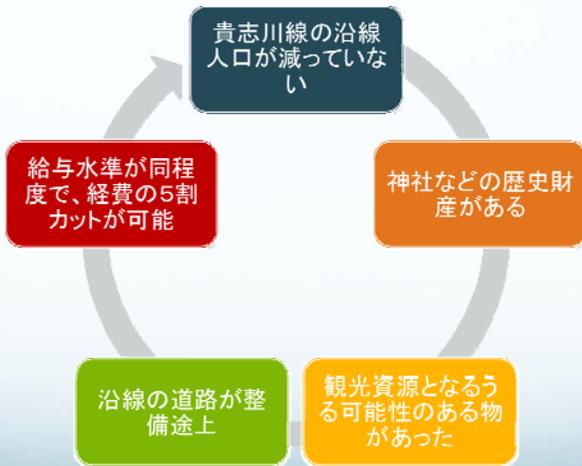
# 公共交通勉強会の概要(H23)

兵庫県



<p>第1回 H23.7.12(火) 参加者81人</p>	<p>テーマ「バスまつり」</p> <p>①講演「持続可能な鉄道に向けた取り組みと 鉄道事業者が行政に期待すること」 (阪急電鉄都市交通事業本部上村部長)</p> <p>②講演「公共交通利用促進に向けたスルッとKANSAIの取り組み」 (株式会社スルッとKANSAI 井上執行役員)</p> <p>③ワークショップ テーマ1「イベントを活用した利用促進策の提案」 テーマ2「日頃の疑問を解消しよう！」</p>
<p>第2回 H23.9.12(月) 参加者85人</p>	<p>テーマ「成功の秘訣を探る」</p> <p>①講演「たま電車～マスコミが取り上げない、真の成功理由～」 (和歌山電鐵 礪野専務)</p> <p>②講演「菊池市の交通体系の構築～交通体系の見直し 新たな交通体系の構築に至るまでに起きた、さまざまな課題について」(菊池市商工観光課 笹本参事)</p> <p>③講演「豊岡市の交通体系の構築～行政と事業者と住民との三位一体の取組～」 (豊岡市都市整備課 谷口係長)</p> <p>④ワークショップ テーマ1「もしも自分が逆の立場だったら」 テーマ2「デマンド型交通の是非」</p>
<p>第3回 H23.11.14(月) 参加者75人</p>	<p>テーマ「課題から学ぶ」</p> <p>①講演「課題から学ぶ」(大阪大学大学院松村准教授)</p> <p>②講演「交通政策のヒント～一人でも明日からできる身近な取組～」 (京都大学大学院 土井教授) 12</p> <p>③ワークショップ「できることからやろう！～行政と事業者が協働して実施する取組」</p>

# 引き受け決定の要素



「たま電車」の取り組みなどが紹介された県の公共交通勉強会=県中央労働センター

## 公共交通再生考える 神戸自治体担当者ら勉強会

公共交通に携わる県内 鉄(和歌山)などの事 民間方式引き継いだ。自治体の担当者や交通事業者が参加した。県交通 備忘録で長を務めた。業者らが課題を語り合う 政策課が主催し、約100人と、県中央労働センター。和歌山電鉄は岡山電鉄(神戸中央区)と手通 軌道(岡山)が設立。6)で開かれ、「たま電車 2006年」南海電鉄が「車で知られる和歌山電 廃止し備忘録を公認

の懸念が大きかったと 備忘録に70回以上催し ているイベントには住民 が参加し、会社の運営に も地元の意見を反映させ ていることを紹介し た。 ほか、地城公共交通 の再生に取り組みする 備忘録に70回以上催し ているイベントには住民 が参加し、会社の運営に も地元の意見を反映させ ていることを紹介し た。 ほか、地城公共交通 の再生に取り組みする 備忘録に70回以上催し ているイベントには住民 が参加し、会社の運営に も地元の意見を反映させ ていることを紹介し た。 ほか、地城公共交通 の再生に取り組みする

神戸新聞(H23.9.14)

## 他自治体等への助言

## 菊池市 講演資料より

・路線バスの廃止には、ものすごいエネルギーが必要になります。

《住民》

- ・他にも赤字の路線があるから、廃止にするの!?
- ・赤字だったら、バス会社が廃止するのはずがない!
- ・(毎年、広報等で周知している)を出してたなんて知らなかった...
- ・都会に出た子や孫に「バスも廃止された」と言われたくない。

**バスは、住民や地域にとって、大きなブランド**

**利用していない人まで含めて、廃止には反対!!**

バスの廃止と同時に、代替措置として、あいのりタクシーを導入することになっていたが、**バス廃止の前後、3ヶ月間、毎日、毎日が苦情が続く...**

ある日から苦情がパタリと止んだ

- ・あいのりタクシーって使ってみると、便利だね。簡単だね。
- ・安い。高いとは思わない。
- ・あれだけ文句を言われていた方が、担当者へ、饅頭や、弁当を作って持って来てくれたり。

**最終的には、TOP(首長)の揺るぎ無い信念が現場の担当者を支える。**



# 第11回スルツとKANSAIバスまつり

兵庫県



日時: H23.9.25(日)10:00~16:00

場所: 園田競馬場(尼崎市)

主催: スルツとKANSAI協議会

参加者数: 約3万5千人(第10回公表数)

自治体の取組:

- ① コミバス車両展示(車両の搬入は事業者)
- ② コミバス人気投票
- ③ 車両の説明・記念撮影
- ④ PR資料の配付



# 学校MM見学会

兵庫県



- ①第1回(H22.12.17): 阪急バス
- ②第2回(H23.7.4): 神戸市交通局





# H23年度の勉強会を終えて

## 成果

- ①参加者が、多種多様に広がった。  
(他府県自治体職員、コンサル)
- ②新聞記事により、自治体職員の勉強会への関心が高まった。
- ③バスまつりでの具体の活動につなげることができた。

## 課題

- ①進行の工夫(マンネリ化の打破)
- ②講師の発掘
- ③各地域での活動への発展



## 勉強会に向けて県がしたこと

### ①学識、講師の確保

京都大学大学院 土井教授、大阪大学大学院猪井助教、  
県立福祉のまちづくり研究所 北川研究員、天野研究員

### ②兵庫県バス協会、関西鉄道協会等への協力依頼

### ③日時の設定・場の確保

### ④テーマの設定

### ⑤開催の案内(メール、総合交通メールマガジン等)

### ⑥資料の作成

### ⑦アンケートの実施(事前、当日)

### ⑧勉強会のレポートの作成



## 来年度に向けて(私案)

### ①勉強会の実施

(他地域での開催、地域公共交通会議の委員の参加を検討)

### ②現地見学会の開催

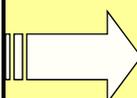
### ③各地域での活動への発展

まず、できることからやってみよう！

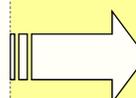
# まとめ



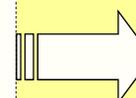
STEP1  
場の構築・人材の確保・情報の共有



STEP2  
計画



STEP3  
行動



持続可能  
なまちの  
構築